

62年会（北海道芽室町）

組織の概要

- R5 設立 ■ 構成員 計 5 名
- 小麦及び大豆の生産にあたり、栽培技術や輪作の検討を行い、生産性の増大を図る事を目的として設立。
- 麦・大豆の栽培技術検討会のほか、心土破碎による排水性の改善、土壌診断及び改良資材の投入、GPS 自動操舵の導入など、新たな営農技術の導入に取り組む。

生産概要

- 作付面積（R6年産）：小麦45.99ha、大豆14.53ha、馬鈴薯14.9ha、てん菜17.42ha、スイートコーン8.14ha等を作付。
- 不耕起栽培を行い、土壌表面の微生物層の活性化を実現し、より良い土づくりを心掛けている。
- 4年輪作を行っている。（馬鈴薯→小麦→豆→てん菜 ※地域で推進する順番）
- 肥料の分施、適切な防除を徹底している。



（小麦は種作業の様子）

取組のポイント

< 生産性向上の推進 >

- 実施主体内で栽培技術検討会を開催。単収向上や面積拡大のため、適正輪作の在り方や栽培技術の情報共有を実施。



（栽培技術検討会の実施）

< 新たな営農技術の導入 >

- 心土破碎による排水性の改善
サブソイラーによる硬盤層破碎により、排水性を改善。これにより、湿害による減収リスクが低減。
- 土壌診断および改良資材の投入
診断結果に基づく堆肥施用や酸度矯正資材投入により、生育向上に寄与。
- スマート農業技術導入
GPS自動操舵による高精度播種により、作業効率化、生育・作付ムラの軽減及び面積増加に寄与。



（スマート農業技術導入）

取組成果

< 小麦収量の増大の実現 >

令和5年から令和6年にかけて、全道平均単収が横ばいの中、実施主体では生産性向上の推進や排水対策・改良資材の投入に取り組むことで605kg/10a→613kg/10aに単収アップを達成。
また、GPS自動操舵導入による作業効率アップにより、作付面積も拡大。

	小麦単収 (kg/10a)	
	R5 (現状)	R6 (実績)
北海道平均	542	541
事業実施主体	605	613
地域単収	683	616

地域単収と比べた
事業実施主体の単収

89% 100%

